

協働事業評価書

事業名「吹き矢で介護予防事業」

事業主体：NPO 法人ぼけっとステーション

担当課：長寿あんしん課

評価者：協働推進懇話会（委員 8 名）

評価：◎他のモデルとなりうる ○適当である △工夫が必要

評価項目	評価【◎○△】	評価内容	評価【◎○△】	コメント
①事業の評価	◎ 1人 ○ 5人 △ 2人	事業スケジュール	◎ 1人 ○ 6人 △ 1人	<ul style="list-style-type: none"> ■事業スケジュールが適切。 ■当初スケジュールの組み方が粗いが、事業はしっかり実施している。 ■口腔機能の向上を当初の成果指標としているにも関わらず、歯科医師や歯科衛生士等の専門的・客観的判断によるアウトカム指標ではなく、参加者の感想を成果指標としていることにやや疑問がある。 ■吹き矢を行う条件に合う場所が限られてしまうことは、計画時から予測出来たと思う。 ■参加者の声から自主サークルが立ち上がったサークルを、団体がサポートして行くことは、今後の介護予防の発展につながっているように感じる。
		事業成果	◎ 3人 ○ 2人 △ 3人	<ul style="list-style-type: none"> ■福祉施設等で開催したことが地域とのつながりを持つ上で有効である。 ■講座への参加者が少ないため、今回の事業を機に吹き矢による介護予防が広がるのか、現段階では確信が持てない。 ■おおむね提案内容通りに実施されたと評価する。 ■集客の課題は、周知方法よりも開催場所にあったと思われる。開催場所や集客方法については、担当課との連携でもう少し工夫を凝らすことが出来たと思う。 ■参加人数が予定より少なかったが、吹き矢の自主サークル立ち上げを支援し、実現したことは素晴らしい。 【提案】 ■吹き矢サークルが誕生したことは素晴らしい。サークル活動が持続できるようなサポート体制を期待する。
②協働の評価	◎ 1人 ○ 6人 △ 1人	プロセスの積み重ね	◎ 1人 ○ 6人 △ 1人	<ul style="list-style-type: none"> ■サークルを誕生させたことや、「まちかど健康相談室」の開所などで事業への広がりが見られた。 ■市が、事業企画を団体と一緒にいったところは、協働として評価できる。 ■協働で実施する理由が若干乏しいと感じるが、実施内容については参加者が楽しめる内容で参加者の満足度も高く、サークル化発展への支援などの成果が見られたことは、非常に良かったのではないかと。 ■この事業を知っているのは一部の市民のみに限られてしまっていると思う。担当課はバックアップできていたか疑問がある。 ■「協働事業」として実施するならば、もう少し市民周知を高めるべく、双方で十分な協議をし、参加者を増やす努力をするべきではなかったか。 ■様々な関係団体がつながり、連携できている様子が伺えた。 ■アンケートを実施することで、市民の満足度が高く、とても評価された事業だったことがよく分かった。 ■市民への周知・広報についてだが、市のメリットを活かした工夫が必要だったように感じる。 【提案】 ■自治会や老人会等をピンポイントでターゲットにし、地域の人にとって身近な集会所等で事業を開催し、足を運びやすくするのも集客方法のひとつである。 ■自治会との協力や、「まちかど健康相談室」等の住民交流サロンの活用等により、吹き矢による介護予防をより多くの人経験できるアプローチを期待する。
		事業の広がり	◎ 1人 ○ 5人 △ 2人	
		市民満足度の向上	◎ 2人 ○ 4人 △ 2人	
		協働基本原則	◎ 1人 ○ 7人 △ 0人	
		協働の成果	◎ 1人 ○ 5人 △ 2人	
③総合評価 上記①、②以外のコメント (団体や市へのアドバイスを含めて)				<ul style="list-style-type: none"> ■サークル化するほど吹き矢が人気な点、口腔や栄養の講座を行った点から、介護予防につながると思う。 ■活動場所が遠いなどでサークルに参加できない人もいたので、単年度の事業で終わってしまうのはもったいない。 ■協働という意味においては工夫して実施した方が良いところも見受けられるが、事業内容そのものは非常に良い事業だと思う。 ■サークル参加に至らなかった参加者に対するフォローを再度行っても良かった。例えば、会場を変えて説明会を行う等をすれば、もうひとつサークルが立ち上がったかもしれない。 ■サークル活動を続けているメンバーには、市内遠方から参加しているメンバーもいると聞く。その面でコミュニケーションの輪が広がっていると思われる。 【提案】 ■協働として実施するならば、団体、歯科医、行政等の関係機関の連携を密にしていくなかで、それぞれの専門分野を活かすべきなので、その点に期待したい。 ■吹き矢の道具の有効活用を図って欲しい。 ■介護予防講座と、レクリエーション・簡単なスポーツを組み合わせることが有効だと分かったため、今後も別メニューを検討して欲しい。